土木学会地震工学委員会
耐震基準小委員会　第 32 回委員会議事録

1. 日時：平成 15 年 3 月 13 日（木）10：00～12：00
2. 場所：土木学会 B 会議室
   出席者：18 名

3. 配布資料
   1) 資料 32-1　耐震基準小委員会第 31 回委員会議事録（案）
   2) 資料 32-2　性能設計普及ＷＧ平成１４年度活動報告と平成１５年度活動計画（案）
   3) 資料 32-3　土木学会技術評価制度〔2001 年度版〕
   4) 資料 32-4　土木学会における性能評価の約款と規約について
   5) 資料 32-5　土木構造物の耐震性能設計における新しいレベル１の考え方
   6) 資料 32-6　土木構造物の地震時安全性評価指針　幹事会報告と執筆体制　執筆の体制とスケジュール（第 10 回運営幹事会資料）
   7) 資料 32-7　（仮称）土木構造物の耐震安全性評価指針　目次
   8) 資料 32-8　2002 年度制定　コンクリート標準示方書［耐震性能照査編］　２章　荷重（写し）
   9) 資料 32-9　コンクリート委員会と地震工学委員会の意見交流会のご提案
   10) 資料 32-10　World List 2004 編集委員会　進捗状況報告

4. 議事内容

（１）耐震基準小委員会第 31 回議事録（案）の確認（資料 32-1）

秋山委員が欠席のため、中島幹事より耐震基準小委員会第 31 回議事録（案）の説明があり、内容を確認した後、了承された。

記載内容については、以下のような説明があった。

・ ガイドライン（案）のホームページ掲載について：順次掲載する。
・ 他の議題については了承された。

（２）性能設計普及ＷＧにおける検討結果について（資料 32-2～4）

本ＷＧ発足の経緯や学会による各種基準類の整備について、当麻委員長より説明がなされ、引き続き、村井委員より本資料について説明がなされた。評価機関に課せられる責任の所在や、中立性、公平性、透明性などの確保の方法について意見が出された。また、土木学会あるいは地震工学委員会において、「模擬審査」を実施する予定なので、案件の提案をお願いしたいとの要請がなされた。

（３）レベル 1 地震動 WG における検討結果について（資料 32-5）

中山委員より、新しいレベル１地震動の考え方についての検討状況が説明された。本日提案の目次案に沿って、最終的なドキュメントを５～６月に提案するとの報告があった。委員から、フラジリティ曲線を決定することの困難さや、ＬＣＣに対する懐疑的な意見など多数出された。そのため、小委員会において十分に議論する必要性が提案され、シンポジウムの形式で、論文発表ではなく、議論の場として設けることとなった。

（４）総合ガイドライン案の検討状況について（資料 32-6,7）

当麻委員長より、「（仮称）土木構造物の耐震安全性評価指針」の目次について以下の説明がなされた。

・ ライフサイクルパフォーマンス（2.3.3）については、レベル１地震動ＷＧと重なる部分が多いので、議論を重ねる必要がある。
・ 断層直上の対策（2.5.2）については、小長井先生の小委員会における議論を参考にする。

この他に、本指針の目的と性格を明確にするべきではないか、code spacification として作成すべきではないか、などの意見が出された。

（６）コンクリート標準示方書［耐震性能照査編］について（資料 32-8,9）

当麻委員長より、資料に基づき説明がなされた。地震工学委員会の提案に対して、コンクリート委員会委員長より、「検討する」との回答を受けているとの報告があった。

（７）その他：World List 2004 について（資料 32-10）

沢野委員より、進捗状況について説明がなされ、関係する機関の方々に協力を求めた。

その他、資料の配布はないが、各検討ＷＧから進捗状況の報告があり、それぞれ了承された。

以　上